

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271600746		
法人名	社会福祉法人 新上五島町社会福祉協議会		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	長崎県南松浦郡新上五島町青方郷1379番地1		
自己評価作成日	平成30年10月1日	評価結果市町村受理日	平成31年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成30年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者が常に笑顔で過ごせるよう支援し、ともに生活をしている。具体的には、毎日の入浴や、散歩やドライブなどの外出、社協や地域の行事への参加を行い、生きがいを持てるよう支援している。また、さくら単独の大きな行事に「さくら祭り」と「さくら旅行」があり、家族や地域との交流の場となっている。そのような状況を「毎月の予定」や「さくら新聞」として定期的に発行し、家族や行政、推進会議の会員へ送付(持参)し周知していただくと共に、参加していただく事も多い。御利用者の身体への不安や、職員の精神的負担軽減のために訪問看護との契約も持続し、定期受診やターミナルケア時にも相談にのっていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体は社会福祉協議会であり、母体の強みを生かした地域との関係性の構築の下に、徘徊利用者を地域で見守る協力体制がある。事業所は理念の具現化と介護計画の実践を根幹に据え、日々の支援に取り組んでいる。島外1泊旅行は恒例化し、利用者や家族の楽しみになっている。地元敬老会への参加や毎日の入浴、喫茶店めぐり、気軽に出かけるドライブや買い物など在宅時と変わらない我が家のような暮らし方を支援している。更に掃除、調理等の家事参加で利用者の自信と笑顔を引き出している。半数が布パンツ使用に改善した、排泄の自立支援の取り組みは特筆すべきである。医療連携の下、昨年4例の看取り支援は家族の安心と信頼を強めている。管理者のこだわりは利用者に向けた暖かい眼差しがあり、利用者のその人らしい暮らしを全力で支援している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホームさくら さくら通り
自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	さくら職員、運営推進会議委員で理念を作り、職員1人1人が理念を覚え、さくら内に掲示し、いつも笑顔でいれるよう心掛けています。また、スタッフと共有できている。	理念にある「らんまんの笑み」を職員全員の目標としている。職員は利用者の笑顔を引き出すため、思いに寄り添う支援に努めており、旅行や地元巡り等喜びを分かち合う取組みを行っている。理念は事業所内に掲示しており、職員は常に意識しながら実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くに保育所や民家があり、散歩時など交流している。また、地域の人達との交流が途絶えないよう敬老会などの地域行事に参加している。小中学校生との交流やボランティアの来訪もある。	事業所主催の祭りの他、母体法人の行事、文化祭やバザー等地域の行事に利用者と職員は参加しており、地域と交流している。一人で外出した利用者への対応にも隣接する法人事業所や地元商店等と協力体制を整えている。中学生の施設体験学習や大学生の実習受入れも行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	さくら内の行事案内を出し、来ていただく事で、認知症の人の事を、理解して頂いている。また、年に数回、地域の方や学生向けの研修や勉強会を実施している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催されている運営推進会議では、御利用者の状況や活動を報告し、意見を頂き、それを月に1度開催するさくら会議でスタッフに伝え、サービスに活かしている。	年6回、規定メンバーで会議を実施している。会議では利用者・職員の状況や活動内容を報告しており、参加メンバーによる活発な意見交換が行われている。恒例のさくら祭りのテーマやさくら旅行の行き先等会議での意見を基に決定している他、意見やアドバイスをサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いたり、毎月のさくら便りを持参し、現状を伝えたり、認定調査時、申請時など、相談にのって頂いたりしている。	管理者は、町職員や包括職員と顔なじみであり、担当職員が事業所を訪れたり、認定更新や申請時には出向き、利用者の現状を伝えたり相談に乗ってもらっている。年2回の地域会議や医療介護連携会に参加し協力関係を築いている。また、職員は行政から案内のある研修に参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や会議等で、身体拘束について協議している。夜間は、防犯上玄関の施錠を行うが、徘徊があっても、日中は常に開放している。御利用者が行いたいことを止めることなく、行って頂けるよう心掛けています。	昨年、身体拘束委員会を設置し、取組みを強めている。外部研修を受講した職員が、全職員参加の会議で報告し、共有と理解を深めている。言葉の拘束はその都度管理者が指導し、職員同士でも注意しあっている。離設の利用者を制止することなく見守る地域の協力体制の構築がある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の暴力に関しては、常に意識をもつよう、職員間で注意し合い、心掛けています。代表のスタッフが研修に参加し、報告、周知して防止に努めている。また、御利用者の尊厳を第一に考えるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業に関しては、1名の御利用者が利用している。成年後見制度に関しては、研修案内が来ると、参加できるスタッフが参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、見学から詳しく説明し、疑問点などが残らないよう配慮している。また、改定などは、文書にて送付し、同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、話せる雰囲気作りを行うよう努力している。また、玄関に苦情や要望を入れる箱を設置している。運営推進会議時、家族にも参加いただき、意見を頂いている。	苦情窓口には第三者委員も配し、契約時に説明している。月の行事予定や利用者の写真を掲載した事業所新聞を送付したり、面会時は利用者の状況を伝え、話しやすい雰囲気を心掛けている。苦情報告書フォームを整備し、職員の意識付けを強め、家族の苦情、要望の抽出に努めている。行事に関する要望や提案の反映がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の際、意見や提案を伝えることが出来る。また、管理者が勤務に従事しない日がある事で、日々の勤務中でも、個別に随時、意見や提案を聞くことが出来る。	職員は、会議や業務の中で提案、要望を伝えている。管理者は、気になる職員に声掛けや個別の面談の他、話を聞いたり、相談を受けている。可能な限り勤務や就労条件の希望に対応し、働きやすい職場づくりに努めている。業務手順の見直しや物品の購入など反映がある。ただし、職員会議は2ヶ月毎であり、意見交換の場が少ない。	行事の取組みや業務上の問題での職員の意見交換は、共有しチームワークを図る上で重要である。利用者への支援の充実のためにも職員会議の回数増を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境については個別に相談したり、会議で提案したりしている。勤務では公休の希望、年休の希望等、要望を提出し、個々の状況に応じた勤務を作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内は、事務所の閲覧できるところに置かれ、行きたい研修に行くことができる。町内の研修には、行ける職員はなるべく参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町の開催する勉強会などで、同業者と交流する機会が持てている。また毎年視察研修において、同業者の施設を視察し、勉強させて貰っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前情報を元にニーズの把握に努めている。不穏時は、気持ちが落ち着くまで耳を傾けて、安心して頂けるよう努力している。日頃から、傾聴することを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	さくら入所前の状況や思い、これからの要望など、初期の段階で、御利用者本人や家族から詳しく伝えてもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	さくら入所申し込みから契約までに、他に方法はないのか、他サービス利用はできないのか、本人、家族を含めて話を行い、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にも掲げ、共に生活できるよう心掛けて いる。一緒に掃除したり、茶碗を洗ったり、 買い物に行ったり、普段の生活を共に行っ ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、現在の様子を伝えたり、家族の方 にアドバイスを頂いたりしながら、本人を交 えて一緒にどうしたらよいか等、考えてい る。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との 関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参り等で訪問した時には、知人等に連絡 を取り、一緒に過ごせるよう努めている。入 所前に通っていたデイサービスに遊びに行 き、馴染みの方と話をする機会も作ってい る。月1回の地元神父様の訪問も継続して 頂いている。	職員は生活歴をアセスメントや会話の中から把握 し、新しい情報は口頭や記録へ残し、共有してい る。家族や親戚、友人、在宅時の近所の住民や趣 味仲間、神父が面会に訪れている。利用者の地 元巡りや墓参り、地元の敬老会へ出席や趣味の 継続をケアプランへ取り入れるなど馴染みの関係 を重視し、支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努 めている	御利用者間の性格等を把握し、座る位置を 考えたり、一緒にできるレクリエーションを考え たりして、御利用者が不快な思いをしたり、 孤立しないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、さくら祭りやさくら旅行の案内を出し、参加して頂いている。また、いつでも相談に乗ったりできるよう、会うたびに声をかけ、話をしたり、さくらに遊びにきて頂いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中での会話や行動、表情の把握を心掛けています。また、モニタリング表や連絡帳を活用し、スタッフが共有して、御利用者が訴えたことを、実践できるよう努めている。	日常生活の中で利用者一人ひとりと向き合い話す時間を持つことで、思いや希望の把握に努めている。耳が聞こえにくい場合には聞き取りやすい側の耳で話したり、表出困難な場合には、表情や仕草から職員の意見を出し合ったり、家族に聞いて本人本位に検討している。把握内容は連絡ノートと個人カルテに記録し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人カルテに、基本情報を載せ、職員が共有できるようにしている。また、話の中で聞いたことを、記録するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の中で、個々の出来ることをして過ごして頂いている。無理強いせず、本人本位で行えるよう努めている。また、チェック表を活用し、バイタルや食事量なども把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御利用者本人、家族からの意向を聞いたたり、毎日のモニタリング表の結果や、月に1回のさくら会議での話し合いで、御利用者のケアについて考え、介護計画を作成している。	2ヶ月に1回ケアカンファレンスを行い、本人と家族の要望を取り入れ、介護計画を作成している。職員が毎日モニタリングチェックを行うことで利用者のニーズを把握し、必要なサービス目標を提案しており、本人のよりよい暮らしのための計画となっている。本人・家族の同意を得て、本人の署名後、計画を実行している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリング表、個人カルテ、業務日誌、ひやりはっと帳等に記入し、スタッフ間で共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常の介護以外に生まれるニーズに対応するため、フリーで動ける日を設けており、美容室に行ったり、地元へ出かけたり、柔軟に対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの来訪や地域で行われる行事（敬老会等）への参加、学生との交流など、利用者様が楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は、現在の状況を細かく報告している。御家族同行時には情報を共有し、直接、意向や意見をDrに伝えて頂く事もある。かかりつけ医とは訪看契約を結び、小さいことまで相談できる関係が出来ている。	利用者の主治医は協力医である上五島病院であり、職員が受診同行している。結果に変化がある場合は家族に報告している。月1回の訪問診療及び週1回訪問看護と契約している。持病があったり、終末期には本人が訪問看護契約を結んでいる。夜間緊急時等の対応を職員は理解しており、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職が不在時は、隣接する社協の看護職に相談したり、訪看に相談している。訪看ノートを活用し、職員間で共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、毎日見舞いに行き、状況をDrより聞き、HPノートを活用し、職員間で共有している。地域連携室とは、密に連絡を取り、早期退院を促している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化に応じて、その都度カンファレンスを開き、Dr、訪看、本人、家族と共に方針を共有し、支援に取り組んでいる。終末期には、個別の訪問看護契約を結び、安心して過ごせるよう支援している。	利用開始時に看取りに関する指針について家族に説明を行っており、同意を得ている。段階に応じて主治医と訪問看護師と共に話し合い、家族への意思確認を行っており、家族の気持ちに寄り添いながら支援に取り組んでいる。看取り後はエンゼルケアを行い、職員全員で利用者を送り出している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防で開催されるAEDの講習に、勤務調整できる時には参加をしている。また、研修に参加した職員が研修報告を行い、情報を共有している。緊急時は、マニュアルに沿って対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回の消防立合いの避難訓練を行い、そのうち1回は、夜間想定での訓練を行っている。御利用者、家族、近隣の方も参加可能な時には参加して頂いている。	年2回消防訓練を実施しており、うち1回は夜間想定で消防署立会いの訓練を行いアドバイスを得ている。地域住民に案内文を手渡ししており、消防団との連携や家族の参加がある。職員は火を出さないことを念頭に、毎日自主点検チェック表で確認している。母体法人に食料等の備蓄品を整備しているが、今年度の自然災害訓練はこれからである。	昨年度は台風・土砂災害を想定した訓練を行っており、有事に備え、継続的に自然災害を想定した訓練の実施が望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できるだけ、ゆっくり、分かる言葉で話すよう心掛けています。人生の先輩という事を忘れず、御利用者の自尊心を傷つけないよう対応している。	職員は利用者を尊敬し、声掛けは苗字にさん付けを基本としている。入浴や排泄介助時は羞恥心に配慮し、認知症の進行にも人格と尊厳を守る支援に努めている。個人情報の取り扱いと写真の掲載は、契約時に同意の署名を得ている。また、個人情報の書類の保管場所は適切である。職員は守秘義務の誓約書を提出し理解している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	答えを早く出してもらおうとせず、考えてもらう時間を作るよう努めている。会話の中で、思いを感じ取り、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるが、個々のペースや、その日の状況に応じて対応するようにしている。不穏時には散歩等で気分転換を図り、支援するよう心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は(HP受診や行事など)マニキュアをつけたり、化粧をしたり、アクセサリーをつけたりと、オシャレに気を配っている。毎日同じ服装にならない様、職員と一緒に選んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に買い物へ行き、食材を選んで頂いたり、お茶を入れて頂いたり、お皿を種類ごとに分けて頂いたり、茶碗を洗って頂いたり、個々に応じた事を一緒に行っている。	主任職員が利用者の希望を取り入れ作成した献立を基本に、利用者の嗜好や医療面に対応し、職員持ち回りで調理している。利用者は買い出しや野菜の皮むき、食器洗いなどを手伝っている。ラーメン流しなど季節の行事食や誕生日は好きな献立で祝い、喫茶店へ出掛けたり、適量の飲酒など楽しむ工夫がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日チェック表に記入し把握している。個々の状態に応じて、とろみ食、きざみ食、低脂肪食などの支援も行っている。食事量が少ない時には、ゼリーやプリン等で補食して頂く等の対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方は、自分で口腔ケアをして頂き、他の方は介助で実施し、歯ブラシ、モアブラシを使用して行っている。夕食後は義歯を外し、洗浄剤につけて頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを排泄チェック表にて個別に把握し、時間誘導に努めている。また、残存能力を活かし、トイレでの排泄が行えるよう支援している。	職員は、排泄介護記録を基に利用者の排泄リズムを把握、共有し、声掛け誘導を行っている。また、排泄の自立支援を理解し、トイレでの座位排泄を基本としている。排泄状況を検討し利用者に合った排泄支援により、利用開始時のリハビリパンツから布パンツへ改善した事例が多数ある。現在利用者の半数以上が布パンツである。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に、根菜や乳製品など取り入れたり、おなか周りの運動を実施したりしている。また、HPで相談し、便剤を使用されている御利用者もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、入浴できる環境を作っている。御利用者に応じて、男性を拒否される方は女性に対応したり、排便失敗後そのまま入浴したり、個々に応じた支援をしている。湯の温度等にも気を配り、不快に感じない様心掛けている。	入浴は毎日準備し、毎日の入浴が基本である。体調や気分が入浴できないときは清拭を行い、車椅子の利用者は2人介助で湯ぶねに入ったりシャワー浴を支援している。個浴や仲良し同士で入るなど希望に応じている。同性介助や好みのシャンプーなどの持ち込みにも対応し、ゆず湯や菖蒲湯、入浴剤など楽しむ工夫がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、体調管理や習慣に応じて、居室に休まれる御利用者は休んで頂いたりしている。夜間は、空調や採光などに注意し、気持ちよく眠れるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診の都度、薬の変化がある場合はHPノートに記入し、個人カルテに添付している。また、誤薬がないよう、服薬時は個数を復唱し、チェック表に記入をし飲んで頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理が好きな方は調理下ごしらえ等、個々の好きな事や得意な事を把握し、御利用者に取り組めるよう支援している。また、散歩やドライブ、草取り等を日々の生活に取り入れ、気分転換できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はドライブに出て、行きたいところに行けるよう、努めている。教会巡りや墓参りなど、御家族に協力して頂き、実施している。	花見や鯉のぼり見物、初詣や墓参り巡り、利用者の地元巡り、喫茶店の日など計画を立て、車椅子の利用者も一緒に出掛けている。その日の気分ドライブや天気の良い日の散歩、外気浴は日常である。家族や元利用者家族も参加する1泊島外旅行は恒例となっているなど、利用者に寄り添って積極的に外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、家族が管理されているが、預り金の中で希望者は職員と買い物へ出かけたりされている。また、年1回は買い物ツアーを実施し、自分で支払い、好きな物を購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、御利用者自ら電話することも可能。家族からの電話には本人が代わり、話をされている。暑中見舞いや年賀状など、書ける御利用者は書かれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季に合わせて、雰囲気作りに努めている。室温や採光に配慮し、居心地良く過ごせるよう、工夫している。壁や玄関の飾りなど、毎月職員が変更したり、一緒に作ったりして、季節感のある空間になっている。	中庭を囲んだ回廊型の事業所内は採光がよく、季節に合わせた飾り付けで温かみのある空間となっている。職員は毎日の掃除と換気を行い、快適に過ごせるよう努めており、掃除機掛けを手伝う利用者もいる。ただし、トイレの手拭きタオルを共同で使用しており、衛生面で不安がある。また、常時、雑巾がトイレの手摺りに干してある。	手拭きは1日に数回は取り替えているが、顔なども拭く利用者もあり、感染の危惧がある。雑巾の収納と合わせて清潔なトイレへの工夫を期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日によっては、独りになりたいと居室に入られる御利用者もいるが、ほとんどリビングで過ごされている。テレビを見たり、好きなことをしたりして、個々で自由に過ごされている。廊下の椅子で一人ゆっくりされる御利用者もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真やマリア像などを置かれたり、テレビやソファを置かれたりと、使い慣れたもの、見慣れたものを持ち込んで頂いている。衣替えの時期は、家族が来られ、一緒に行われる方もいる。	居室への持ち込みやベッド、調度品の配置は自由である。家族写真やマリア像、ソファ等馴染みのもの、使い慣れたものを利用者の意向に合わせて配置し、その人らしい居室となっている。職員が毎日掃除と換気、室温管理を行っており、本人が居心地よく過ごせるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで手すりを設置し、できるだけ自力歩行をして頂いている。廊下には歩行を妨げるものを置かないようにしている。自分の居室が分かるよう表れを作ったり、トイレの場所を案内する貼り紙を貼ったりと工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271600746		
法人名	社会福祉法人 新上五島町社会福祉協議会		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	長崎県南松浦郡新上五島町青方郷1379番地1		
自己評価作成日	平成30年10月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者が常に笑顔で過ごせるよう支援し、ともに生活をしている。具体的には、毎日の入浴や、散歩やドライブなどの外出、社協や地域の行事への参加を行い、生きがいを持てるよう支援している。また、さくら単独の大きな行事に「さくら祭り」と「さくら旅行」があり、家族や地域との交流の場となっている。そのような状況を「毎月の予定」や「さくら新聞」として定期的に発行し、家族や行政、推進会議の会員へ送付(持参)し周知していただくと共に、参加していただく事も多い。御利用者の身体への不安や、職員の精神的負担軽減のために訪問看護との契約も持続し、定期受診やターミナルケア時にも相談にのっていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホームさくら さくら並木
自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見える所に理念を提示していて、法人の理念を実践している。業務開始前に確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接のディサービス、及び社協の催し物に出かける機会がある。保育園、小学校、中学校との交流も定着し事業所行事への地域の方の参加もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人が年に数回地域の人々にむけて認知症セミナーを開催。小中学生の総合学習も受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回運営推進会議を行い、管理者、利用者、民生委員、家族、行政担当者の参加があり現状報告を行い意見交換をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月便りを届けに行き、便りはもちろん、口頭でも積極的に伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等で身体拘束を行わない取り組みを実践。行動や行為を妨げない意識づけや言葉の使い方にも気をつけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加した職員の話を聞き、内容を再確認したり職員同士注意し合い、虐待がないように気をつけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加して学んでいる。成年後見制度を利用している家族がおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前に自宅に訪問する。契約時利用契約書や重要事項説明書の十分な説明を利用者も交えて行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置があるが、利用されてる家族は少ない。日常的に意見の出やすい雰囲気作りに努め、面会時等に家族としっかりコミュニケーションを図り、日々の触れ合いの中で重いを汲み取るように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも意見を言える雰囲気や関係作りに努めている。会議では職員からの意見を出す機会となっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に則った労働環境に取り組んでいる。法人が労働環境改善にむけた取り組みを宣言。人事考課制度導入も検討。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加する機会がある。他法人への視察研修を行い、スキルアップ向上に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の研修やスポーツ大会を通して交流している。地域包括支援に向けた情報交換会も開かれている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に家族に見学してもらい不安な事や要望ご傾聴し安心して頂けるような関係作りに努めている。事前の情報収集を元に必要なニーズの把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に訪問し、家族から生活歴、困り事、要望を聞いて良好な関係作りを心がけている。入所後も日常の様子を報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在使用している事業所と綿密に連絡を取り合い情報収集に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にもある通り、共に暮らすという意識を持ち人生の先輩から学ぶという姿勢で共に生活している。教えあったり励まし合ったり喜怒哀楽を分かち合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、電話等で利用者の状態を伝えながら家族の意向を伺い職員が全てを支援するのではなく家族に出来る事はして頂くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣接のディサービスを訪問している。知人の面会や家族との外出等さくらや各地区での行事にお誘いしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人や面倒見の良い人などが隣になるような席の配慮をしている。自然な関係が出来るよう、無理に仲介せず見守りを重視している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	顔を合わせた時に進んで挨拶するよう努めている。各地区の行事に参加する事で近況を知る機会としている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話、表情、行動等から利用者の思いを聞いたり、感じたりし気づきは細かく職員間で共有し意見を出しあっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に利用者、家族、知人、事業所等から生活歴の情報を集めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況、健康状況を個別のカルテへ記入。又連絡ノートを活用して共有もしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三か月毎の介護計画の見直しで、利用者、家族の意向をお聞きしている。必要時カンファレンスを実施。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア、気づきは個別に記録し定期的に評価を行い、介護計画を見直している。利用者が発した何気ない一言大切に記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お墓参り、美理容室へ外出等支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事に参加。各カトリック教会の神父に来訪を願い祈りの場を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望される病院やかかりつけの医に受診される利用者、往診の利用者がいる。家族が付き添われる場合は、情報を共有し家族から医師に直接相談される機会がある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師が週2回程度勤務。法人内の看護師とも連携している。訪問看護と契約していて、相談体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず付き添い、毎日訪室する事で情報収集、病院との連携を図る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合における対応の指針を説明し理解して頂いている。さくらでの看取りを希望された場合利用者、家族、主治医、看護師と連携を取り最大限に出来る事を支援。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人や外部での研修に参加する事で実践力向上に努めている。緊急時のマニュアルがあり、急変や事故発生時に対応できる体制がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年に2回昼間夜間を設定した防災訓練を行っている。利用者も参加されている。防災拠点となるべく定期の訓練を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者（名前をさん付けで呼ぶ等）や態度に留意しながら対応している。個人情報の管理は周知徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の状態に合わせて、耳を傾け解り易い言葉等自己決定しやすい場面を作るようにしている。日々の献立について、話し合っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の体操を日課とし、そこから個別の希望に応じて趣味や外出の支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前職員と一緒に洋服を選べるよう、支援している。外出や特別の日には、化粧等楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の聞き取り等を参考にメニューを決定。食事の片付け等個人の力や役割りに合わせて職員と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取表を活用。食事形態等その人が食べやすいように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを支援、夕食後は義歯の洗浄消毒を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、必要な利用者には時間を見てトイレ案内をしたり職員に話しかけるような視線、言葉を逃さないように心掛けている。失敗のあった場合清拭、シャワー浴を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を元に食物繊維の多い食事の工夫や乳製品に提供、水分補給に努めている。日常生活の中で少しでも身体を動かす機会を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	終末期に利用者以外は、基本的に自由に入浴出来るようにしている。状況によっては、シャワー浴、足浴、清拭を行い清潔の保持に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況により、自由に休息できるように支援している。ゆっくり安眠できるように、光の調整をしたり音を極力出さないよう努力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬箱を用意し、飲み忘れがないよう注意している。服薬チェック表を活用。個別カルテに処方を書き記し、用法等の理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や得意な事を把握し、家事作業の手伝い、掃除等役割を持つ事で力を発揮出来、楽しく生活出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に配慮しながら、職員と買い物に出掛けたり、散歩ドライブ等行っている。事業所行事もあり地域の方、子供達との触れ合いの場も増えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者、家族と相談し欲しい物がある時は立て替え払いで対応する事もある。必要時に保管金庫から取り出し、職員と一緒に買い物される利用者がいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リビングに電話を設置。電話の取り次ぎも自由に出来る。家族に書いた手紙を職員に投函するよう頼む利用者もいる。年賀状のやり取りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	場所が解るよう紙を貼ったり、暖簾をつけたり等工夫している。季節によって模様替えを行い四季を感じてもらおうよう、工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、テーブルでは気の合った利用者同士で座ってもらっている。廊下や玄関や利用者の居室に椅子やソファを置き、それぞれに過ごせるような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に協力してもらい、入所時になじみの物使い慣れた食器、日用品等持参して頂いている。出来る限り、自宅での生活環境に近づけるよう、努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目印になる物を配置し、理解出来るようにしている。手すりやスロープを設置している。個室は能力に応じて、内部の配置変えをしている。		